

大学院生 卒業エッセイ

夢

第 12 期大学院生 王 皓莹

2 年半の大学院生活を経て、私は 2016 年 9 月に、商学研究科の修士課程を卒業しました。振り返ると、本当に夢みたい日々でした。入学当初、研究課題を見つけられず、家の隣の小さな公園で泣くこともありましたが、国際学会に 2 回も参加できるほどに成長しました(これについては本当に小野先生と小野ゼミの皆さんのおかげです)。修士論文締め切りの直前、隣で私の論文を手伝ってくれていた同期の中村さんに、「もう王さんの顔を二度と見たくない」と言われながら、論文を書き終わりました。次の日の朝、先生のところへ行くと、なんと合格を貰うことができました(後で再提出することになりましたが...)。その日、修士 2 年の石井さんに言われた「諦めたらダメだよ」という一言は今でも覚えています。この 2 年半は、本当に夢みたいでした。

実は、慶應の大学院を受けた時は、私は大学の先生を目指していました。単純に母親が大学の先生を勤めていて、大学の先生という職業に馴染みがあり、また、「夏休みと冬休み(中国には春休みというものはありません)があつて、いいなあ」と思っていたためです。しかし、修士課程を経て、当時の自分は本当に考えが浅かったということに気づきました。「やはり向いていない」と自分に言いかせました。

最近実家に帰省しています。実家は中国北部の西安にあります。いわゆる PM2.5 の disaster area です。出掛ける度に必ず母親に「マスクをつけて」と命じられて、「嫌だなあ」と思いながらも「肺がん」になりたくないで、マスクをつけて出掛けています。実家に帰って、部屋に「パナソニック」の空気清浄器が置いてあることに気づきました。中国では「パナソニック」だけではなく、「ダイキン」の空気清浄器も人気があります。空気清浄器を開発した日本の皆さんに感謝するべきです。

「大学の先生」になるという夢がなくなった私は、新たな夢を見つけなければなりません。まだ日本語が下手な私ですが、4 月からはなんと、日本の金融機関に勤めます。フォーチュン 500 に入る大企業だそうで、本当に夢みたいです。(なぜ私を採用したのかはわかりませんが(笑))新しい夢を持ちつつ、これからも歩んでいきます。



小野先生と第 7 期 OG 菊盛さんと
卒業式にて(著者は左端)